

第105回 関西広域連合委員会

日時：令和元年5月23日（木）

場所：リーガロイヤルNCB

2階 淀の間

開会 10時55分

○井戸広域連合長　それでは、早速でございますけれども、第105回の関西広域連合委員会を開催させていただきます。

今日は冒頭、大阪・関西万博の2025年開催に向けまして、経済産業省と2025年日本国際博覧会協会の関係の皆様方とともに、万博計画具体化検討ワーキンググループの皆様方にお越しいただいております。

それでは、橋爪先生以下メンバーの皆様方に自己紹介をしていただいて、その後、2025年日本国際博覧会協会の石毛事務総長にもご挨拶いただくということで皮切りしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○橋爪委員　おはようございます。大阪府立大学の橋爪でございます。

関西広域連合とは関西観光文化計画の検討の委員として、長く御縁がございます。現在、経産省に設置されております、大阪・関西万博具体化検討会及びその下にあり、万博計画具体化検討ワーキンググループの委員を務めております。よろしくお願いいたします。

○石川委員　こんにちは。予防医学の研究をしています、石川善樹と申します。よろしくお願いいたします。

万博のテーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」ということで、「いのち輝く」とは何なのかということ具体的に言うとどういうことなのだという、そんなようなところで議論に参加させてもらっています。よろしくお願いいたします。

○齋藤委員　おはようございます。ライゾマティックスの齋藤と申します。

私、ライゾマティックスという、どっちかというコンテンツとか表現、アートとかを実際に制作してやっている会社をやっておりまして、前回、ミラノ万博の時もシアターの部分を制作させていただいて、今回はそういう視点からソフトウェアとか、今回、スマートシティとかというワードも出てきていると思いますが、そういう観点から委員会のほうに参加させていただいております。よろしくお願いします。

○澤田委員 澤田と申します。1985年の科学万博からずっと博覧会をやっておりまして、愛知万博では催事の担当をさせていただきました。博覧会づくりの専門であります。

関西とは結構縁があってですね、水都大阪を橋爪先生と御一緒させていただいて、近いところでは2015年医学会総会で、この会議で井村先生とかばん持ちで出させていただいて、2回目でございますが、関西には知人も多く、事情もわかる部分がありますので、お役に立てればと思っております。よろしくお願いします。

○豊田委員 建築家の豊田と申します。よろしくお願いします。

noiz architectsというところで、国内外でいろいろ建築をやっているのですが、実は、あの安藤忠雄建築研究所に以前所属しておりまして、夢舞台を担当していたので、当時、井戸先生にも何度かお会いしたことがありますけれども、でも、今、デジタル技術を使って建築がどう変わるかって、かなり180度違うこと、180度ではないんですが、やっていて、特に今回、会場計画という形でいくと物だけでなく、じゃあネットを介した参加とか、じゃあ、物を超えて、時間を超えてという形をいろいろ考えなければいけないので、特にそういう観点で、いろいろお話を伺えればと思っております。よろしくお願いします。

○石毛事務総長 2025年日本国際博覧会協会事務総長の石毛でございます。

ジェトロに7年半おりまして、知事、市長、自治体の皆様方には大変お世話になりました。ありがとうございました。まず、その御礼を申し上げたいと思います。

関西の地域に、たしか4カ所ほど新たに事務所をつくらせていただきまして、知事、

市長の皆様方初め自治体の皆様方には大変御協力いただきまして、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

そうした上で、この万博協会ですが、御案内のとおり1月の末に発足しまして、準備をしまいましたが、先週の半ば、理事会で私が事務総長に選任されました。そうはいっても、この左にいらっしゃる先生方と違ひまして、万博については全くの無知でありますので、しっかり勉強をしながら、いかに万博をスムーズに動かせるようにするのか、その準備を誰がするのか、それが私の役割とっております。

関西との関係では、唯一ジェトロが大阪が発祥の地だったというぐらいしか縁がございませんけれども、しっかりやっていきたいとっております。今日は、関係者の皆様方の御意見をしっかり聞いて、我々の今後の取組に役立てていきたいとっております。ありがとうございます。

○井戸広域連合長　　ありがとうございました。

それでは、意見交換会に入らせていただければと思いますが、その前に御紹介だけさせていただきます。

連携団体であります福井県の杉本知事にも、この議論に参加していただいておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これからの進行は橋爪座長にお願い申し上げますので、よろしく願いいたします。

○橋爪委員　　よろしく願いいたします。

現在、ワーキングでは、多くの有識者の方に開催計画の具体化に向けて意見を伺っているところでございます。

本日参っております5名のほか、あと2人、佐野委員、西口委員の7名で進めておりますが、本日は御所用がありまして欠席です。

本日は、事務局より、時間は45分以内で、と御要望をいただいておりますので、早速ですが意見交換に入りたいとっております。事前に一定のフォーマットでペーパ

一をいただいておりますが、順次御意見を頂戴したいと思いますのですが、大変恐縮でございますがお一人2分以内でお願いいたします。

では、まず広域連合長、井戸知事、お願いいたします。

○井戸広域連合長　それでは、お手元に資料が用意されていると思いますが、やはりせっかく関西で行う万博ですので、関西一体としてどのような盛り上げをつくらせていただくのか、これが一番の大きな課題だと思っております。

私どもとしては、関西全体で盛り上げるという意味でも、できれば共同のパビリオンを関西としてつくらせていただくことを考えてはどうかと検討を進めさせていただいております。愛知万博でも中部が共同でパビリオンをつくったようですので、関西広域連合ができていないのに、共同のパビリオンがないというわけにはいかないだろうと考えているものでございます。

それから、コンテンツの議論を進める際に、若者の意見をどう取り入れていくか、ということ念頭に置いていただくとありがたいと思っております。

それと、先ほどは関西全体のパビリオンと言いましたけれども、今回は、前回の万博と区別するために大阪・関西万博と「関西」を入れていただいたのでありますが、それならば、もっと実質化して関西として取り組ませていただくという意味で、希望する各府県市のサテライト会場を柔軟に認めていただいて、積極的に採用していただけたらということでございます。

例えば兵庫ですと、神戸で医療産業都市を進めておりますので、その医療産業を中心としたようなサテライト、あるいは淡路島ですと、公室に食料を提供した御食国（みけつくに）と言われているところでもありますので、食をテーマにしたサテライト、姫路ですと姫路城もありますし、日本の伝統文化の味わえるサテライト、というようなものが考えられますので、ぜひ柔軟な対応を御検討いただくとありがたいと思います。

それから、4番目に書かせていただいておりますのはアクセスの問題でありまして、

せっかく会場近くに3空港、そして、南紀白浜空港と徳島阿波おどり空港があるので、この5空港の連携を念頭に置く必要があるのではないかと考えております。特に2025年だと、関西国際空港も満杯になっている可能性があります。その満杯になっている関西国際空港との関連で、どのようなインバウンド客の受け入れ態勢をつくっていくかということも大きな課題になるのではないかと思いますので、この点についての視点が必要ですし、もう一つ、夢洲は東側とは道路とか鉄道でつながれるわけですが、西側が海ということがありまして、現段階では、アクセスの整備が何もされていません。そのような意味で、会場アクセスも今後かなり真剣に検討していく必要があるのではないかと考えております。

例えば、尼崎の一番先端からは2キロぐらいしかありませんし、神戸の六甲アイランドとか、淡路の洲本からもそれほど長い距離でもないということもありますので、そのような意味で、対応を検討する必要があるのではないかと考えております。

それから、今年からゴールドenspportsイヤーズという、ラグビーの世界カップ、来年のオリンピック・パラリンピック、再来年のワールドマスターズゲームズ2021関西という世界大会が開かれ、そのゴールのような形で大阪・関西万博が開かれることとなりますので、これらの大きな世界大会を、一連のものとして捉える位置づけを検討していただけたらいかかと思っております。

以上、広域連合の立場で申し上げましたが、その次に、兵庫県としての意見も書かせていただいております。繰り返しは避けませんが、関西の健康技術と関西の観光文化、この2つのパワーの発信をしていく必要があると思っておりますし、コンテンツについて言いますと、保健医療基盤や高齢社会に対するノウハウの提供、あるいは最先端医療技術の紹介などが関西の特色を出し得る分野になり得るのではないかと考えております。

それから、もう一つは、兵庫の立場になり過ぎるのかもしれませんが、西洋人が開発した六甲山に再注目していただくような対応を兵庫県や神戸市としても考えさせて

いただこうとは思っております。その点についてもご理解いただけましたらありがたいと思っております。

私からは以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、次に、副広域連合長、和歌山県仁坂知事、お願いいたします。

○仁坂副広域連合長 短くやります。沢山紙書いてあるんですけど、2つだけ。

1つは、共同パビリオンは連合長からお話がありました。私は言い出した一人なので、ぜひやりたいと思います。

その中身ですが、幾つか、沢山あったっていいと思うんですけど、最新技術、例えばVRとかARとかホログラムとか、いっぱい使ってますね。それと伝統とか自然とか、関西が伝統的に売ってきたような話をコラボさせたらおもしろいんじゃないかと。各県全部そういう売りがあると思うので、そういうのをやったらおもしろいなと思います。

もう一つは、紙を配ってありますが、やっぱりアクセスは大事でございます。井戸知事が言われた御意見に加えて、道路関係もきちっとしておいたほうがいいと思います。じっと眺めますと、事業化してもらっているものだけ赤で高速道路網をつくりました。日付の入っているものは完成年月日が明らかなものですが、完成年月日が明らかでないものについても、2025年、あるいは2024年末かもしれませんが、あたりに設定してもらって投資をしていただくと。少し余計に配分をしてもらわないといけないけれども、決して無理な数字ではないんじゃないかなと。せっかく万博やるんだからレガシーとしても、こういうものも残して、しかも、この夢洲からあちこちへ行って楽しんでもらう。そういうことの手段になるんじゃないかと思っております。

以上です。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、京都府、西脇知事、お願いいたします。

○西脇委員　　どうも、西脇でございます。私も短くやらさせていただきます。

ただ、非常に簡潔に資料をまとめておりますので、7・8ページをご覧いただきたいと思います。

まず、「万博に期待すること」でございますが、3点申し上げております。

1点目は、「万博を一過性のイベントではなくて、今後のリーディングプロジェクトとして、是非とも次に何につなげていくかという方向性を整理していただければありがたい」と思っております。資料には例示として、社会づくり、文化づくり、まちづくり、産業づくりというところで、あくまでイメージを記載させていただいております。とにかく、次にどういうものにつなげていくのかということのコンセプトの整理をお願いしたいと思っております。

2点目は、「万博の効果を関西全体、日本全体、そして世界に広げていくということ」で、ここも若干書いてございますが、特に関西広域をサテライト的に位置付けて、先ほどからも話が出ておりますけれども、周遊・体験・体感するという仕組みづくりですとか、関西各地の企業、研究施設との連携みたいなことで、全体に広げていただければというふうに思っております。いずれにしても、それを日本、世界に広げていくということでございます。

3点目が、テーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」でございますが、「その『いのち輝く』というもののあり方をどういうふう to 実現されていく、それも多様な形で実現されていくような形で具体化をしていただければありがたい」ということで、ここにも女性、障害者、こども、高齢者の全ての方が健康とか、それから健康長寿も生命倫理まで含むような命のあり方と、科学技術につきましても掘り下げて、文化、宗教、哲学、それとの関係みたいなことを問いかける場も提供していただければ深まるのかなと思っております。

8ページでは、これは「コンテンツ」ということでございますが、これはたぶん皆さん一緒だと思いますが、未来社会の技術に対してのまさに実装としての万博。それ

から、阪神・淡路大震災もそうですが、昨年も色々な災害がございましたので、自然災害への経験も踏まえた、災害対応力のようなものも示せればと。そして豊かな日本の食文化ということで和食文化を中心とした食文化についてもと思っております。

それから、「会場計画とかインフラ」についてでございますけれども、これは先ほどの未来社会の技術とも関連しますけれども、要するにキャッシュレス、モバイル、それも含めて、全体的なバリアフリーということで、私も前の万博のときは中学3年生で、京都だったので、何回も行きましたけれども、可能な限り待ち時間とか混雑とか滞留、それもストレスになりますので、そうしたストレスのない会場計画と、先ほどから出ておりますけれども、ウォーターフロントという特性を活かした会場づくりをしていただければありがたいと思います。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、鳥取県平井知事、お願いいたします。

○平井委員 ありがとうございます。ぜひ夢のある、そういう夢をみんなで共有できるような、世界中の人たちが憧れて来るような、そういう万博にしていきたいなと思います。そういう旅に病んで夢は枯れ野を駆けめぐるといふ、芭蕉が最期を迎えたのは大阪でございました。まさに今度、夢洲がですね、その中心になるわけであります。

実は、澤田委員には、20年前、鳥取は夢みなと博というのをやりまして、その時も大変にお世話になりました。

やっぱり万博というのは、すばらしいのは、みんなが行ってみたいという憧れがなきゃいけないと思うんですね。そのコンテンツをしっかりとつくっていく必要があると思いますが、幸いなことに今、クールジャパン、日本に対する興味に関心としては、ライフサイエンスもそうでありましょうし、あるいは自然、それから豊かな文化、そういうところも含めて関心があるのだと思うんです。ですから、テーマはテーマとし

て貫く必要はありますけれども、実はトータルで関西を売り込む、これをぜひ基本にすべきかなと思います。

関西のいいところは、日本海側から太平洋側まで貫かれていますし、そこには歴史や伝統もあれば、また、おいしい食べ物もある。そういう食材や、あるいは日本食の宝庫ということにもなろうかと思えます。ぜひその辺を見ていただければと思います。

単に1つの島の中だけでなく、広がりを持って周遊していただけるような、そういう魅力の発信、それから、お客様の誘導を実際にチケット販売の段階からやっていく、それが大切ではないかなと思います。

食は1つのポイントになると思います。先ほど西脇委員が京都から通ったというお話がありましたが、私は当時東京におりまして、初めて飛行機に乗って大阪万博に行きました。一番感動したのがアメリカンドッグでございまして、覚えておられると思うんですが、あれから結構メジャーになりましてですね。やっぱり食というのは大事でありますけれども、日本にはいろんな食材がありまして、関西のそうした食材を紹介するような、そういうコーナーといいますか重点をですね、ぜひここでは扱っていただければありがたいなと思います。

また、いろんな技術、夢を見るという意味では、ライフサイエンスの分野、あるいは、その関連ということもあろうかと思うんですが、やっぱりびっくりするようなことを見せてあげたり、示すということも必要だと思うんです。例えば、鳥取はカニがよくとれるんですが、カニ殻を使ってキチン・キトサンという、そういう物質をつかって、それが例えば家畜も含めて、生体にも利用されるということがございます。こんなようなことを、いろんなアイデアを見せられるようにする。そのためのつながりをですね、ぜひ中核でも行っていただいて、関西のそれぞれの構成府県市と協議をしていただければと思います。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、滋賀県西嶋副知事、お願いいたします。

○西嶋副委員 ありがとうございます。滋賀県です。

まず、大阪・関西万博に期待するという点でございますけれども、3点ございまして、1つ目は、SDGsへの貢献ということでございます。

琵琶湖淀川水系の水環境保全の取組を初め、豊かな自然と調和する人々の暮らしとか、あるいは、ここに書いていますが、近江商人の「三方よし」の精神、それから、障害者福祉の父・糸賀一雄先生の実践など、こうした思想や歴史、文化、生活をSDGsに通じるものとして広く紹介をして、未来社会のデザインを示す場となることを期待いたします。

2つ目は、イノベーションの創出でございまして、関西が有する世界に誇れる資産や資源、技術やポテンシャルなどを生かすことで、来るべき未来社会に向けたイノベーション創出の実践の場となることを期待いたしますし、あわせて、これらを国内外に発信する絶好の機会となることを期待いたします。

3点目は、観光資源の発信といざないでございまして、関西の観光資源の中でも、いまだ世界的には知られていない観光資源が沢山ございます。その発信の絶好のチャンスと捉えまして、海外からの観光客の各地域へのいざないについて、つながることを期待いたします。

それから、見せるべきコンテンツや会場計画、インフラ整備でございますが、見せるべきコンテンツにつきましては、世界のトップレベルの健康長寿を支える日本の食材や食文化をコンテンツとして見せることができると、よいのではないかと考えます。

また、会場計画等につきましては、関西全体の共通周遊パスとか、このような観光客を呼び込むような仕掛けづくり、あるいはまた、環境に配慮した会場運営、会場整備に当たっての関西企業様等からの資材調達等々なども御検討を賜れば、ありがたいと思っております。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

○橋爪委員 ありがとうございます。

大阪府、濱田副知事お願いいたします。

○濱田副委員 大阪府としての意見を13ページ、14ページにまとめさせていただいております。かいつまんで御紹介をさせていただければと思います。

まず、13ページの万博への期待という点でございますが、2つ目の丸でございますように「いのち」というのをキーコンセプトにして、世界の価値観を変えていくとか、新たな価値観を生み出していくということがポイントではないかと考えていまして、例えば具体例として、iPS細胞などの技術を活用しまして、人工臓器を展示するというふうなことで、世界の人々があっと驚くような万博というふうなことがつくり上げられればなと思います。

その中で特に、次の丸にありますように、子供が夢や希望を持って、世界に目を向けられるような形にしていくことが1つのキーポイントではないかと思っております。

次に、「万博の成功に向けて」とまとめてあるところの2つ目の丸のところに書いておりますけれども、そのためには、1970年の大阪万博の時もそうだったとお聞きしておりますけれども、若いクリエイターの方をぜひ登用していくということでございますとか、そのちょっと下に書いてあります、いろんな規制緩和なんかもやっていくというふうな環境整備も必要なんじゃないかということでございます。

続きまして、14ページでございますが、コンテンツの部分でございます。

上に「今後の成長・発展の柱として」と書いておりますが、SDGsというのも1つ、万博の柱でございますので、世界各国の発展につながる道筋をつけていくという観点から、2つ目の丸に書いてありますような、世界中のコンテンツをさまざまな方から提供いただくような、そういう仕組み、仕掛けをつくっていくということができないかなと考えております。

それから、日本の歴史・文化への共感ということに関しましては、バーチャル参加を含めれば世界の80億人、全ての方がアクセスできるような万博を実現していくということで、これを通じて皆さんが日本各地を訪れていただけるような仕掛けをつくる

と。

「例えば」と書いてある2つ目の丸にありますような、全国各地のお祭りを披露していくというようなことで、日本の関心を高めるというようなアイデアもあるんじゃないかということでございます。

3点目のインフラ整備の関係でございますが、先ほどから、同じような御趣旨のお話が出ておると思いますが、日本各地との連携でございますして、日本の各地で行われるイベントと万博会場を連携させて、万博に行ってみたいなという気持ちが、日本国内あらゆるところで起きてくるというような形になればいいなと思っております。

最後、4番の「自由に御意見を」というところに関しましては、先ほどの話とも重なりますけれども、万博会場、WEB配信をするというようなことで、実際に会場に足を運べないような方々も仮想体験ができるというような環境をつくっていただくということができればいいのではないかと考えております。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、奈良県、村井副知事お願いいたします。

○村井副委員 奈良県からは大きく3点を申し上げたいと思います。

1点目は、総論的なことでありますけれども、今回の万博は、やはり最先端の技術などの英知が結集されて、新たなアイデアを創造・発信していく場であるとともに、豊かな日本文化の世界への発信の絶好のチャンスであると、当然のことながら思っております。

未来志向の万博を見ることができると同時に、これまでの歴史も振り返ってみることができ。これが、この関西の大きな魅力ではないかと考えております。

例えば本県でありましたら、国内外から万博に来られた方々、その前後に「日本国家の始まりの地」であります奈良を訪れていただいて、豊かな歴史・文化遺産に触れていただきたいと思います。そして、このことが奈良県として、今回の万博の魅

力アップへの最大の貢献、役割ではないかと考えております。

具体的なことは、今日申し上げませんが、基礎的なことといたしましては、当然W i - F i 環境の整備でありますとか、観光地間の移動の円滑化などということも今、取組を進めております。

2点目は、会場計画の関係でありますけれども、万博は各国のパビリオンなどが1会場に集中するということが大きな魅力だと考えております。サテライト会場というよりも、それが悪いというわけではありませんけれども、むしろ夢洲に集中投資するほうがよいのではないかという思いはございます。

それから、インフラ整備につきましては少し書いておりますけれども、例えば奈良市内から夢洲の会場のほうへ直接向かうことができる鉄道の整備、こういうものが進んでいけばいいなと考えております。

3つ目、最後ですけれども、先ほども御提案、お話がありましたけれども、今回の万博の開催が一時的なブームということにとどまることなく、将来に継承できるような関西や日本の財産の創出につながる事が一番大きなことかなと考えております。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、徳島県、海野副知事お願いいたします。

○海野副委員 徳島になります。

17ページでございますが、2のコンテンツのところでございますが、やはり最先端の技術を、アピールしていくということだと思っております。「いのち」がテーマということでございますので、ライフサイエンスの最先端分野の技術を、アピールしていくということが極めて重要ではないかと思っております。本県では光科学と医療を融合させた研究等がございますが、関西においては、いろいろとライフサイエンスについては、強みがあるかと思っておりますので、そういったことを、アピールしていくということではないかと。

また、関西におきましては自然と文化が豊富でございますので、そういった意味でVR等の最先端技術で体験をしてもらってはどうかと思っているところでございます。

次に、18ページになりますが、会場計画、インフラ整備についてでございますが、冒頭、広域連合長からお話がございましたように、会場アクセスが極めて重要ではないかと思っております。大阪湾ベイエリアの5空港を連携して活用していくべきということございまして、本県には徳島阿波おどり空港がございまして、そういったところからのアクセスも十分御配慮いただければと考えているところでございます。

また、会場開設までにバーチャルの会場をつくって、できるだけ早くアピールをしていくということも重要ではないかと思っているところでございます。

また、共同パビリオン等のお話がございましたけれども、全国と連携させるというお話でございましたが、いろんなイベントが地域地域にありますので、統一されたコンセプトのもとに万博のオフィシャルイベントとして位置づけていただければと思っているところでございます。

あと、会場のデザインでございますが、人に優しい、環境に優しいということは当然でございますが、我々は現在、消費者庁移転に取り組んでおりまして、エシカルという視点を強調し、関西を中心にエシカルを推進しているところでございまして、エシカルについても、視点として入れていただければと思っているところでございます。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、大阪市、田中副市長お願いします。

○田中副委員 大阪市ですが、19ページから20ページでございます。

これまで御発言ありましたように、大阪・関西の強みを十分に生かした万博という思いは、大阪市も同じでございます。したがって、それ以外の特に、大阪市として期待すべきこと、お願いしたいことを何点か申し上げます。

1つは、19ページの中ほどでございますが、幅広い市民の参画というのがございま

す。この万博開催時におきましては、ボランティアを含めたさまざまな形で、市民が直接参加し、楽しめる万博にすべきだと考えております。特に子どもたちにとりまして、いろいろな国の人々と直接接するという事は非常に貴重な経験になりますので、ぜひそのような観点での取組をお願いしたいと思っています。

2つ目は、20ページの上から3分の1ぐらいのところにあります輸送手段の多様化でございます。まず、自動運転など最新技術の積極的な活用も必要と考えております。

あわせて、先ほどから、いろいろな委員の方から海上輸送の話がございました。非常にこれには期待しておりまして、ただ単に輸送力を確保するという観点だけではなくて、移動そのものが楽しい。移動中はもう既に万博の会場の一部というぐらいの楽しいものを1つ考えていってはどうかと思っています。

3つ目は、20ページの一番下になりますが、やはり十分な広報活動です。大阪・関西だけでなく、これから全国的な機運醸成を図るための広報が必要になってくると思いますが、同時に、万博開催中の例えば道路交通渋滞や鉄道の混雑など、いわゆる地元市民に御協力をお願いしなければならないことも、これから出てくると思います。これについての広報も大変重要と考えていますので、よろしく申し上げます。

最後に、災害時の対策でございます。大阪市におきまして、津波、高潮にも十分耐えるような高さの造成を行っておりますが、やはり来場者の避難誘導や必要な備蓄物質の確保等、あるいは、外国の方々にとっても非常にわかりやすい情報提供、そういう万博の運営サイドからの取組というのも必要だと思っていますので、その検討もぜひよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、神戸市、寺崎副市長お願いします。

○寺崎副委員 神戸市でございます。

井戸広域連合長がおっしゃったことと基本的に同じ考えでございます。

21ページでございますが、先端医療ということで、ポートアイランドに医療産業都市というものが構成されております。ちょうどこの場所は、1981年にポートピア81という博覧会が行われているところでございます。先ほどの会場輸送との連携も含めまして、この医療産業都市との連携、また、将来的にサテライト会場というものもあるのであれば、そういったものも視野に入れながら神戸としても一生懸命、この一員として参加してまいりたいと考えております。

3つ目の「・」でございます「脱炭素化への挑戦」ということで水素社会、これもポートアイランドに、世界発で水素100%の燃焼を実現した実証実験を現在やっておりますし、神戸空港島に水素のプラントを建設するといったことも行っております。ぜひ大阪・関西万博を契機に水素社会に向けて、この関西が世界をリードしているんだということが示されるような姿になればなと考えております。

最後、書いておりませんが、1点、前回の大阪万博の時に大変好評を博したものが神戸発のものでございまして、UCCコーヒーが当時開発した缶コーヒーというのがございました。世界で最初に発売されたのですがなかなか売れなかった。これが万博を契機に一気に売れたということございました。こういった新たなイノベーション、スタートアップを含めまして、この万博を契機に関西からイノベーション生まれるんだというようなことが、今回の大阪・関西万博で派生すればいいなと強く期待しております。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、京都市、奥井室長お願いします。

○奥井室長 ありがとうございます。京都市でございます。

23ページ、まず、1つ目の期待することとしましては、万博が「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会、SDGsの実証の場となることを期待しております。また、万博を契機に多くの方々が関西の魅力に触れ、ファンになり、繰

り返し訪れていただくことも重要であり、そのために京都が貢献できる部分も大きいと考えております。

さらに、2021年に開催されます「ワールドマスターズゲームズ2021関西」と万博は、健康長寿というコンセプトが同じでございますので、万博と連動したPRなどを通じまして、多くの方々にこの大会にも参加いただき、健康長寿への意識、関心の高まりを万博に生かすなど、ワールドマスターズゲームズのレガシーをしっかりと万博につなげていくとともに、万博の成果をその先の関西、日本の発展につなげていくことが重要と考えております。

次に、コンテンツについてでございます。

健康医療の先端技術、文化・芸術、歴史、食文化など、京都・関西が持つ世界が誇る多くの資源を最大限に活用すること、これらの担い手の中には中小企業や伝統産業を担う個人がいることも踏まえ、あらゆる企業や人に参画いただくことが重要と考えております。本市におきましても、地域企業の持続的発展を総合的に推進する「地域企業応援プロジェクト」を実施しているところでございまして、ノウハウや知見を万博に生かしていきたいと存じます。

同時に、京都への文化庁の全面的な移転、徳島での消費者行政新未来創造オフィス設置、和歌山での統計データ利活用センター設置など、関西は地方創生を牽引している圏域でありますので、引き続き政府機関とも連携し、日本全体のさらなる活性化に努めてまいりたいと考えております。

裏面にお移りいただきまして、会場計画、インフラ整備でございます。

ビッド・ドシエにも記載があります「全世界の人々が遠隔で参加することができる」仕組みが不可欠であり、VRやICTなどの技術は2025年までの間にもさらに伸び続けると考えております。関西・日本の企業等と十分連携し、万博を契機に技術力のさらなる強化を図ることができるよう進めていただきたいと考えております。

最後に、4つ目、その他としまして、本市としまして、都市特性を生かした取組

を、経済界等と一緒に、オール京都でしっかりと検討してまいりたいと考えておりますので、こういった自治体独自の取組に対します支援につきましても、お願いしたいと考えております。

なお、サテライト事業の位置づけにつきましても、検討状況等を含め、情報提供がございましたら、その都度お願いしたいと存じます。

以上でございます。

○橋爪委員 ありがとうございます。

では、福井県、杉本知事お願いをいたします。

○杉本福井県知事 今日、こうしてお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

私からはまず、期待の部分でございますけれども、今回のテーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」ということでございますので、いろいろ多様な生物の「いのち」という観点もありますけれども、まずは人が生き生きと輝くということがとても大事だと思います。特に今、ネットやバーチャルの時代になって、自分の生活から何か遊離したところで、ものごとは進むのですけれども、やっぱりストレスを自分の中にためない、そういう生活を、ライフスタイルとして、ちゃんと提案できるような万博にさせていただく必要があると思っております。

そういう意味では、ちょうどこの万博の後、北陸新幹線が2030年ごろにつながります。それからリニアもつながってくるわけですが、特に北陸新幹線の場合は、日本海側とつながることで、生活と非常に密着していくと思います。例えば、京都から小浜の駅までは19分、2,110円で結ばれるようになります。そうすると大阪や京都で一生懸命働きながら、夕方になったら自然豊かな、食べ物のおいしい、人が優しい小浜に暮らす。そういう日ごろの生活もあれば、週末の居住ですとか、それから移住とかいろんな形で人々の生き方を豊かにするような、そういう提案が可能になります。この万博を、一過性のイベントで終わらないように、そういうような提案を関西の皆さん

に、もしくは日本中の皆さん、世界の皆さんに発信できるような万博にさせていただければと思っているところでございます。

それから、コンテンツのほうでございますけれども、これにつきましては、福井で新しい、世界的にも、これからどんどん発信ができるものが三方五湖の一つ、水月湖にあるんですね。これは年縞といいまして、何千年・何万年前の歴史を年単位で、これは何年にあったかということまで特定できるような、すばらしい新しい素材がございます。こういったものもSDGsの実現に向けて、1つの素材になると思っておりますし、やはり何ととっても文化性ですね。インバウンドのことを考えても、日本の文化性、地域文化、こういった意味で例えば、福井であれば禅の文化がありますし、和食については各地にいろんな食べ物があります。福井も御食国で、小浜から京都とかに食べ物を運びました。そういったストーリーをつくって発信できるように考えていただければと思っております。よろしく願いいたします。

○橋爪委員 ありがとうございます。

この後、ワーキングの我々との意見交換と思っておりましたが、ほぼ予定の時間になりました。ワーキングの委員の方から一言、コメントなどありましたらお願いいたします。

○澤田委員 皆さんからの話はごもっともだと思うわけではありますが、片や、やはり博覧会というのは、やっぱりある種、限界もあります。やっぱり社会全体が熱狂して動いていくことがすごく重要だなと思います。最近の東京を見ますと、来年東京オリンピックに向けて、どんどんビルが建てかわったり、いろんなプロジェクトされています。でも、オリンピックと、実はあんまり関係ないんですね。2020年に向けてやろうという、いってみればそういうみんなが息を合わせて、そこでそれぞれをやっていこう、そういう1つのゴール点に使っているんだらうなというふうに思います。

そういう意味でいいますと、2025年の万博会場で何ができるか、博覧会で何ができるかということも大事なんですけども、それは皆さんがおっしゃったようなことを

ちゃんと取り組めるような事業構造とかプラットフォームをしっかりとつくることは重要であります。関西全体の社会が熱狂する意味で見ますと、その外側にどういうプロジェクトを沢山つくり出せるのかということが、実は非常に重要なことなのではないかなと思っておりまして、愛知万博で非常にうまくやられたのは、トヨタのパビリオンでございまして、トヨタのパビリオンは、表というより裏側のビップルームがすごいんですね。世界中のディーラーを呼んできて、トヨタの戦略を皆さんにプレゼンテーションしてやっていました。

アメリカ館も同じようになっていて、これは日本企業に対してアメリカの企業が来て、アメリカを売り込んだということで、表側は非常に重要なんですが、実は、そういったビジネスセールスも非常に重要だと思います。

そういう意味でいいますと、周辺にいろんな事業をつくっていただいて、博覧会があるということで少なくとも100カ国以上の政府代表が来ますし、そういうふうに関連する企業の方、VIPをお呼びするには非常にいい口実になりますし、日本に行きたいと思っていちゃいますので、どんどん招いていただいて、博覧会会場でビジョンなり、ある姿を見せて、実際には現場ですよ。技術は、やはり生きているものがすごく重要でございますから、単に映像で見せるということじゃなくて、それが実際に現場で、どう稼働しているのか。

特に医療になりますと制度の問題、それから、いろんなものが絡んできます。文化の問題も絡んできます。そういうものを実際に博覧会場でまずプレゼンテーションして、その現場を見せて、実際に関西全体、日本全体を売り込んでいくそういったような、単なる見せ物というとおかしいんですが、それにとどまらずに、日本全体の技術が世界中に貢献をしていく。それは、ある種の貿易促進だということもありますが、そういった博覧会の使い方が私は、実は重要なのではないかなと。それがあって初めて博覧会全体が、社会全体が熱狂して行って、博覧会全体が熱狂して、社会が進展する。

1970年の大阪万博は、まさに日本中が熱狂したと思いますので、今回も博覧会協会、経産省も頑張るわけでありますが、皆さんと一緒に、周辺の事業を沢山つくって、世界の鼻を明かす、そういうやり方もあったのかといったような博覧会になるといいのかなというふうには、皆さんのお話をお伺いして思いました。

○橋爪委員 ありがとうございます。

時間がなくなりましたが、もしほかにもコメントありましたらお願いします。

○齋藤委員 齋藤でございます。

いろいろと御意見ありがとうございます。やっぱりここにいらっしゃる方々、いろいろ同じような意見が出たということは、僕はすばらしいことだと思っていて、広域でやっぱり連携すること、あとは周遊であったり、今、澤田先生もおっしゃいましたけど、2025年まで例えば町をつくる時に、できるだけSDGsとか、今回の大阪・関西万博の中で使われるテーマをやっぱり会場外でも実装していくということが、今、御意見いただいて、そういうことも念頭に考えていらっしゃるのかなと思いました。

あとは、幾つか出ましたけれども、やっぱり若者の活躍できる場をつくると。1970年の時は僕、まだ、くしくも生まれてなかったんですけど、その時にコシノジュンコ先生がまだ31歳であるとか、若い人たちがどんどん起用されたというのは聞いております。

僕も、そういう物をつくる業界にいて、今なかなか若者が世界に出ていくチャンスというのが、もちろんクールジャパンであるとか、そういうところではあるんですけど、なかなかやっぱり出ていくというのが、チャンスがないところがあってですね。ぜひそういう機会を皆さん、広域連携しながらつくっていただきつつ、そういうような仕組み、取組も事前から始めていけるといいのかなと思いました。

○橋爪委員 時間が来ています。ここで私が最後まとめさせていただいて、終わりたいと思っております。ありがとうございました。

本日の御意見、5点ほど整理させていただきたいと思います。

1 点目といたしまして、関西全体として万博に積極的に参加していただくという明確な意思をいただけたと思っております。特に関西共同の出展、パビリオンというお話もございました。

2 点目といたしましては、関西の歴史・文化、先端技術等の魅力を再度、世界にアピールし、経済・文化活性化につなげていくということをさまざまな視点からお話しいただけたと思います。先端医療とか健康に関する産業等々、あと、特に食文化に関しましても、各府県市からお話があったと思います。

3 点目といたしまして、アクセスに関して既存のインフラの連携等について、かなり御意見いただいたと思っております。バイエリアの5つの空港、あるいは会場アクセスの重要性、あと会場内の移動手段等も大事でございますが、あと道路に関しましてもお話しいただけたと思います。特に、アクセスそのものが楽しいというふうなことも重要であるという御意見もあったかと思っております。

4 点目といたしまして、夢洲の会場と関西各地が連携し、来場者の各地域への訪問を促すことということに関しまして、多様に御意見いただけたと思います。それも観光客だけではなくて、澤田さんとも、いつも話をしておりますが、世界中から多くの方々が関西に来られますので、ビジネスのチャンスでもある。この機会をどう生かすのかということも含めて、関西全体で人の動きを活性化する方策があればと思っております。

また、サテライトについてもご意見をいただきました。何をもってサテライトと呼ぶのかということは、実務上さまざまに検討すべきことがまだございます。また関連オフィシャルイベントという言葉もございました。関西各地で、万博とともに何らかの催事で盛り上げていただければと思っております。

5 点目といたしまして、博覧会の前と後のあり方についても、さまざまにご意見をいただいたと思います。前では、全国的に機運を醸成すること。世界の若者が夢を持って憧れるような博覧会であるということは、博覧会場に行ってわかることではなく

て、事前のプロセスの中でまず示すべきであろうということでした。多くの人が集まる場所で「夢」を掲げることは大事だと私も感じました。

博覧会の後のレガシーについてもご意見をいただきました。一過性にしないということで、ゴールデンスポーツイヤーズとかなどとのレガシーの連携もございます。

「いのち輝く」というテーマを掲げておりますので、「いのち輝くあり方」とは何ぞやということ、博覧会の後も我々は示していく責任がある。そういう想いを持って博覧会の準備を進めていかなければいけないと、思いを新たにさせていただきました。

以上をもちまして、本日の意見交換は終了とさせていただきます。

今日は、貴重なお時間を頂戴いたしましたことを改めてお礼申し上げます。

最後に、井戸広域連合長、御挨拶をお願いいたします。

○井戸広域連合長 橋爪先生からおまとめいただきましたが、万博につきましては、我々も当事者であるという意識を持って参加をさせていただきたいと思っております。

私のサテライトの提案は、勝手にやってもいいようにしておいてくださいという意味でありますので、もちろん位置づけていただきたいのでありますが、勝手にいろいろなサテライトをつくってもいいぞと。だめと言わないようにしていただきたいのであります。

例えばラグビーにしても、オリンピックにしても聖火リレーまで、人数まで決めて、コースまで決めて走らせて盛り上げろというわけですから、盛り上がるはずがないのですね。ですから、そういうことも含めてよくお願いをしたいと思っております。

今日は、ワーキンググループの先生方、そして石毛事務総長も含めまして関係の皆様方、どうもありがとうございました。これからもよろしくお願いを申し上げます。

それでは、本題に入らせていただきたいと思います。

まず、協議事項の初めは、国の予算編成に対する提案についてです。

本部事務局から説明をさせていただきます。

○事務局 資料の2をお願いいたします。

関西広域連合の政府提案につきまして、この1ページ目の中段にあります、大・中項目の柱立てによりまして、構成府県市の意見を集約して取りまとめております。

2ページ以降、特に6月に提案活動を行うことが効果的と考えられるものにつきまして、重点項目という形で概要をまとめております。

左端に「新」とあるものが、今回の新たな提案項目になっております。

3ページの3項目、4ページの地方分権の関係、5ページの防災関係、6ページのがん検診、7ページのスーパーシティ構想の早期実現、一番下の万博の関係を新規の提案としております。

そのほかにつきましては、現時点での時点修正をしております。

そして、本日協議していただきまして、必要な修正を行った上で、6月を目途に提案活動を行っていきたいと考えておりますので、御協議のほど、よろしくをお願いいたします。

○井戸広域連合長 新しい項目につきましては、さらに検討を加えなきゃいけないところがあるかもしれませんが、ともあれ、6月中旬ぐらいまで、まだ時間的余裕がありますので、それぞれ各委員に持ち帰っていただきまして、再チェックの上、事務局に御意見等ございましたら提案してください。その後調整させていただき、取りまとめて政府に要請をしていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

個別の意見は伺わないことにさせていただこうと思いますが、それでも特にということがありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

それでは、今のような運びでお願いしたいと思います。

続きまして、地方分権改革についての提案募集への提案項目についてです。

○事務局 資料3でございます。

1つ目として、対応方針を記載しております。

今年度の対応方針といたしまして、1つ目に、関西全体の共通の課題の解決に資する大きくりの提案を行うこと。2つ目として、先行的に特区のような方式での権限移譲を求める提案を行うことなど、こちらのほうに対応方針をまとめております。

提案内容につきましては、1枚めくっていただきまして、別紙のとおり、先ほどの対応方針に基づきまして、14項目の提案を予定しております。

次のページでございますけれども、表の下のところにもございますが、この14項目のうちの基本方針に基づいた関西広域連合へ実証実験的に特区のような方式で移譲を求めるものとしまして、①の国土形成計画法に基づく近畿圏広域地方計画の策定権限の移譲、⑬の大学の許認可権限等の権限移譲、⑭の専門職大学の許認可等の権限移譲の提案の3つを整理しております。

また、下の【参考】では、現在の提案方式では、なかなか個別事務の改善にとどまってしまうということもありますので、国への予算編成に対する提案の中に、先ほどもありましたような要望を入れていくということを記載しております。

提案募集につきましては、既に必要な内閣府との事前相談の手続を進めているところでございまして、御承認いただけましたら、6月6日までの募集期間内に提案させていただきたいと考えております。

今後のスケジュールは、資料の項目の4のとおりでございます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○井戸広域連合長　　この中で新規提案というのは、どれとどれですか。

○事務局　　新規提案は、一番最後の専門職大学の許認可等の権限移譲、こちらのほうが再提案ではなく、新しいものでございます。

○井戸広域連合長　　それでは、特に何か御意見ございますでしょうか。

事務局にもお願いしているのですが、あり方検討会のほうからも言及のありました、国の出先機関の一括移譲を求めるだけではなくて、国との連携という視点でどのようなことが、どのような事業が考えられるかという点について、政府に対する要望にも

挙げなきゃいけないと思いますし、この地方分権改革についての提案募集の最終取りまとめにもぜひ含めたいと思います。

そんなつもりでおりますから、よろしく申し上げます。

ほかにございませんか。

この専門職大学の許認可というのは、大学の法制度に風穴をあけることになるのですが、すけれども、今の専門学校などの許認可権限は、既に都道府県に来ているはずですが、専門職大学の場合は、大学とその専門学校の中間的な存在と思われるので、今回、提案をあえてしようかということでございます。

よろしければ、こんな方向で具体の提案をしてみりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、次に移らせていただきます。

関西プラスチックごみゼロ宣言を発したいということでの提案でございます。

滋賀県さん、お願いします。

○西嶋副委員 ありがとうございます。

広域環境保全局から提案を申し上げます。

プラスチックごみ問題につきましては、地球規模での環境汚染や生態系への影響が懸念をされ、国際会議で議論されるなど、世界的に関心が高まっております。来る6月28日及び29日に大阪で開催されますG20サミットにおきましても、この問題が議論される予定となっております。

この機会を捉えまして、関西全体の広域行政を担う関西広域連合が、域内の住民、事業者などに3Rの一層の推進を呼びかけるとともに、プラスチックごみによる海洋汚染防止に取り組む強い決意を国際社会に向けて発信することとし、今回、別紙1のとおり、「関西プラスチックごみゼロ宣言」を発出したいと考えますので、賛同を賜りたいと思います。

今回の宣言につきましては、プラスチックごみ問題が世界的に注目を浴びておりま

して、環境保全分野にとどまらず、生産、流通、消費などを含めた分野をまたがる問題でありますことから、関西全体での宣言と位置づけており、発信者は関西広域連合とさせていただきます。

これまで取り組んでまいりましたマイボトルやマイバッグ持参運動等を通じた3Rをより一層推進していくとともに、この宣言の発出に沿った今後の取組といたしまして、各構成府縣市等における宣言書の一斉広報及びプラスチックごみ削減に関して、地域の住民の皆さんや事業者等がみずから既に取り組んでいることや、また、これから新たに取り組みたいと考えていることにつきまして、「私のプラごみ削減提案」(仮称)として募集をしていけばどうかと考えてございます。

私からのほうからの提案は以上でございます。皆様よろしくお願ひ申し上げます。

○井戸広域連合長 G20の開催を目前にして、開催地であります関西が地球規模での環境保全の1つのテーマに対しまして、取組姿勢を明確にしていくということは非常に意義があるのではないかと思われますので、御賛同いただくということで、よろしゅうございましょうか。

ありがとうございます。

このゼロ宣言、関西全体の意思を明確に発信していく必要がありますので、委員会の最後に全員集まって写真撮影を行いますから、御協力をお願いしたいと思います。

それでは、関連するシンポジウムの開催についての説明をお願いします。

○事務局 本部事務局から説明させていただきます。

来る6月11日に海洋プラスチックごみ問題に関するシンポジウムを開催いたします。こちらは大阪府との共催で、大阪国際会議場を会場に、関西SDGsプラットフォーム、それから大阪サミット関西推進協力協議会の後援を得て開催するものでございます。

第1部では、大阪府の企画による講演、第2部では、関西広域連合の企画による琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォームの立ち上げとプラットフォーム関係者に

よるパネルディスカッションを実施いたします。

この立ち上げには三日月委員に御出席いただきまして、立ち上げ宣言をしていただくこととなっております。

詳細につきまして、お手元の資料にチラシを添付しておりますので、御参照いただければと存じます。

報告は以上でございます。

○井戸広域連合長　それでは、ぜひ関係の皆様への積極的な参加をお願いしたいと思います。

続きまして、G20大阪サミットにつきましての取組状況でございます。

濱田副委員からお願いします。

○濱田副委員　資料の6をお願いいたします。

G20大阪サミットの取組状況の御報告でございます。

さまざま構成府県市の皆さんから御協力いただきまして、あと1カ月余りとなってまいりました。

この6ページ、1枚目の左側の真ん中の辺に書いてありますが、会議の開催支援の進捗状況で申しますと、鉄道会社などによりまして、コインロッカーとかごみ箱の使用中止というのを期間、若干先立ってお願いするというのを発表いたしましたほか、交通総量規制、これ大阪市内の交通量を50%削減というのが目標でございますが、これについて先般、一般道の交通規制の情報も公表いたしまして、これは後ほど大阪府警本部のほうから簡単に御説明をさせていただきたいと思っております。

それから、資料の2枚目をごらんいただけますでしょうか。

もういよいよ直前になりまして、盛り上げ図っていこうということでやっております取組、幾つか御紹介をさせていただきたいと思っております。

左上にございますKODOMO新聞「大阪サミット特別版」の作成でございまして、子供たちがこのサミットの意義などを学んでもらうための新聞を読売新聞社と協力い

たしまして、作成をいたしまして、大阪府内の学校に配るということですが、このDVD版の動画は、協議会のホームページのほうでも公開いたしますので、またごらんをいただければと思います。

それから、その下でございますが、大阪サミットクリーンUP作戦でございますが、きれいな町でお客様をお迎えしようということでございますが、大阪府域でこのようなイベントといいますか、取組も行ってまいります。

それから、右上にございますロゴマーク入り広報シートでございますが、ここに示しておりますようなロゴマークを作成いたしまして、これをホームページのほうに載せまして、これをプリントしていただいて、ポロシャツなんかにもプリントしていただけるような仕掛けをつくりましたので、こういったものをまた御活用いただいて、クールビズの季節に使っていただければいいのではないかとこのように思っております。

以上でございますが、交通規制の関係で、あと府警本部のほうから少し御紹介をさせていただきます。

○大阪府警本部 続きますが、府警本部のほうから交通規制の概要につきまして、御説明申し上げたいと思います。

まずは、資料のページ数では、5ページ目の「G20大阪サミット開催に伴う交通総量抑制対策について」をごらんください。

6月27日の木曜日から30日日曜日までの4日間、最大で早朝から深夜まで、阪神高速、環状線を中心として、大規模な通行止め規制を実施することとなります。

白黒印刷でごらんいただいている方にはわかりにくくて恐縮なのですが、資料右側にある地図で、赤色で示したところが通行止め路線でございますが、また、これに伴って大規模な渋滞の発生が予測される路線を青色で示しているところがございますが、近畿自動車道なども大変大きな影響を受ける予定となっております。

また、大阪市内に各国首脳らが分散宿泊いたしますことから、そのホテル周辺エリアの一般道におきましても、頻繁な通行止め規制を行う予定でございます。

こちらはページめくりまして、資料7ページのエリア図や、さらに、その裏の8ページ、交通規制のお知らせのとおりでございます。現在、これら内容を周知に努めているところ、こちらは大阪府警のホームページにカラーで掲載させていただいているところでございます。

大阪府警にとっても事実上、初めてとなります、こうした大規模な交通規制を行う中におきましては、市民生活と社会経済活動への影響を最小限にとどめ、また、緊急車両など真に必要な車両が円滑に通行できるようにするためには、交通総量の抑制対策というのは極めて重要となっているところでございます。

この点、現在、大阪府警では「車はあかん、今日は大阪サミットや」というキャッチフレーズを用いて、期間中4日間におけるマイカー利用の自粛を訴えているところでございます。

サミットに伴う大規模な交通規制につきましては、大阪府下が中心になるところではございますけれども、この交通総量抑制対策を図る上では、関西隣接府県から大阪市内の車両乗り入れ自粛という点も、極めて重要となっているところでございますので、オール関西の取組として展開いただきますよう、この場をお借りしてお願い申し上げる次第でございます。

以上でございます。

○井戸広域連合長 特に何か質問ございますか。

交通規制区間で事故等が発生した場合、救急車両はどうなるのですか。

○大阪府警本部 いわゆる赤灯を照らし回している救急車両に関しましては、通れるようにしているところでございます。消防車、救急車等々については、全く支障はございません。

○井戸広域連合長 ほかにございますか。

なければ、G20の円滑な運営ができますことを期待したいと思います。よろしくお願いたします。

続きまして、ワールドマスターズゲームズ2021関西の準備状況につきまして、御報告申し上げます。

○ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会事務局

今回、報告は3点ございまして、資料7をお願いいたします。

資料7のまず3ページです。

スポーツアコード ゴールドコースト2019における取組ということで、この5月5日から10日まででオーストラリア、ゴールドコーストで開催されましたアコードに総長以下、組織委員会が参加いたしました。

その中で、まずIMGAの総会がございまして、その中で今回参加料、競技日程について承認をされております。

それから、裏の4ページ見ていただきますと、パンパシフィックマスターズゲームズとの連携協定の締結ということで、総長以下、あとパンパシフィックと連携協定を結んでおります。写真も入れております。

それから、もう一つは、ブース展をいたしまして、大会のPR、誘客をしてまいりました。

それから、次が7ページをごらんください。ちょっと横になっておりますけれども、新たなアンバサダーの就任ということで、今回、元女子ソフトボールの日本代表監督の宇津木さんほか、10名の皆様にアンバサダーに就任いただきました。これで合計33名となりまして、今後も引き続き協力を呼びかけていきたいと思っております。

次に、9ページをごらんいただきますと、2年前イベントを開催を予定いたしておりまして、これ、前回にも御説明しましたが、5月26日の11時から18時、グランフロントの大阪うめきた広場で開催します。

ちょっとこのチラシでは、まだ間に合わなかったんですけれども、アンバサダーで出演いただくのが武井壮さん、桑田真澄さんのほか、柔道の杉本さん、それから、元K-1ファイターの武蔵さんに御出席いただくことになっております。こういうこと

で盛り上げていきたいと思っております。

私からの説明は以上です。

○井戸広域連合長 綱引きは誰が参加するのでしょうか。

○事務局 当日、小学生の参加を募ってやることとなります。

○井戸広域連合長 楽しい会にさせていただきたいと願っておりますので、どうぞよろしく御協力のほどをお願いしたいと思います。

そして、開催までもう2年になり、今年は本格的な準備の年ですので、よろしくお願いいたします。どうぞ。

○西脇委員 1点だけ。本当の2年前の5月14日の日に、私と門川京都市長の2人も参加しまして、京都駅前で2年前イベントをさせていただきました。京都タワーの点灯の色を変えましてやらせていただきました。報告だけです。

○井戸広域連合長 ありがとうございます。

どうぞ、平井委員。

○平井委員 2年前ということになりましたので、いよいよやはりPRも力入れるべきでありまして、私たちいろんな立場で、海外で観光プロモーションの機会がございますから、ぜひ事務局のほうでもですね、そういうところに提供していただいて、そういう何かメッセに出る時に、ついでにちょっとみんなでPRをすると、それぞれですね。そういうことを開いていただければなというのが1つでございます。

あともう一つ、当日、実際、お客様が広域的に移動されるわけでありまして、JRのパスなどですね。この辺、移動、連合長にも大変お世話になっておりますけれども、ぜひ競技を開かれるところには皆、パスで回れる、そういうところを最低限、目指していただきたいと思っております。

○井戸広域連合長 今回の点については、JR西日本に、今のパスでも行ける鳥取から米子まで延ばすことの協力を申し入れて、協議をさせていただいています。

それから四国については、徳島県さんがJR四国と交渉をしていただいて、動ける

よくなるということではないかと思っています。

もう一つ、直通バスの運行を会場間でつなげるように、しっかり検討を進めていきたいと思っています。

それと、来年の2月に本格的な受け付けが始まりますので、少なくとも10月か11月ぐらいまでの間には概要が明瞭にならなきゃいけませんので、ぜひ御協力をお願いしたいと思います。

明日ですけれども、私、小池東京都知事にお会いしまして、宝くじの協力を求めていますと思っています。関西全域で取り組むようなビッグイベントですので、ぜひ協力をいただこうと思っていますが、ほかの地域の皆さんの協力も必要になりますので、この協力を求めていくこと自身が、このワールドマスタースゲームズ2021関西のPRにもつながりますので、ぜひ皆さんも御協力と推進方お願いしたいと思います。

ほかにはないようでしたら、次に移らせていただきます。

政府機関等の移転推進の取組について、本部から御説明いたします。

○事務局 資料8でございます。

昨年の4月に和歌山県に統計データ利活用センターが開設されまして、本年度は1周年に当たります。このことから令和元年7月3日に総務省、独立行政法人統計センター、和歌山県の主催により、統計データ利活用センターの開設1周年記念シンポジウムが開催されます。

2つ目でございますが、政府機関等との地方創生推進会議としまして、関西広域連合、在関西政府機関、在関西経済団体が会しまして、来週の5月29日に、この会議を開催することとしております。関西における政府機関との連携した取組などについて、意見交換する予定としております。

報告は以上でございます。

○井戸広域連合長 それでは、1周年記念シンポジウムの新しい時代のデータ利活用開催と地方創生推進会議につきまして、御盛会をお祈りしたいと思います。

続きまして、「うみのこ」の体験航海について、西嶋副委員、お願いします。

○西嶋副委員 広域環境保全局からお知らせを申し上げます。

本県が運用しております環境学習船「うみのこ」、裏面の下のほうに、その姿がございすけれども、この事業は、1984年から本県が運用しております、もう35年になります。小学5年生を全員乗せております、既に55万人以上の小学生が一泊二日の琵琶湖の体験航海をしてありますが、この「うみのこ」を活用した交流型の環境学習の提案でございます。この船は、昨年リニューアル、新船を築造いたしまして、今新たなスタートを切っておったところでございます。

これにつきまして、ぜひ関西の皆様にも体験をいただきたいと。昨年も大変、大好評を博しました。この「うみのこ」の体験航海をこの夏休み期間中にも実施をさせていただきたいと存じます。航海では国民的資産とされました琵琶湖において、琵琶湖の生物に関する学習とか、あるいは雄大な琵琶湖北湖の景色を展望していただいて、魅力あふれる琵琶湖を体験し、有意義な学びをしていただきたいと、このように願うところでございます。

行程等は、ここの表に書いてあるとおりでございます。日帰りでございます。

近々に参加者を募集させていただきたいと考えておりますので、どうぞ皆様、周知等に御協力をお願い申し上げます。

以上でございます。

○井戸広域連合長 滋賀県さんの多大な協力を得て、このような機会がつくられていますので、ぜひ奮って御参加をいただきたいと思えます。

続きまして、先日行われました北陸新幹線の建設促進大会の報告でございます。

○事務局 資料が10でございます。

先日、今週の火曜日、21日に東京で北陸新幹線建設促進大会、それから中央要請が実施されましたので、報告をさせていただきます。

午前中の促進大会につきましては、連合長に出席をいただき、要請等を行っていた

できました。午後からは中央要請を行っております。

要請先につきましては、次のページをご覧くださいと思います。

広域連合からは村上本部事務局長が出席をいたしまして、大阪までの一日も早い整備、延伸とそれから、敦賀・大阪間に並行在来線は存在しない等の要請を行っております。

以上でございます。

○井戸広域連合長　促進大会は促進大会として盛り上がっているのですが、特に新しい情報としては、例えば、JRへの貸し付けの期間が今30年なのですが、これを50年にしたらどうかというような案が財政審議会に、財務省自身から出されているというような状況の変化というのが出てきております。そのような意味では、「これから」とはされていますけれど、財源対策について、かなりいろんなアイデアが検討されてきているという状況にあるのではないかと考えています。

いずれにしても、以前言われていたような令和13年度以降でないとならざることを認めないという雰囲気ではないと。もう当然に敦賀から連続して着工していかないと、北陸新幹線の大阪乗り入れというプロジェクトは意味がなくなるぞ。という共通理解になりつつあるのではないかと期待を抱けるような雰囲気ではありました。これからさらに皆さんと一緒に、しっかり取り組んでいく必要があるのかと考えております。

京都市と京都府の場合は、環境アセスが今後進められるわけですが、その環境アセスの中で、しっかりきめの細かい対応が必要になるということなのではないかと考えています。我々も協力をしていくところがありますし、冒頭、例えば地方負担についても、関西広域連合全体として取り組んでいこうというような申し合わせもしているわけでもありますから、そのような意味で協力をお願いしたいと思います。

○西嶋副委員　一言御礼申し上げます。この大会の席上で、並行在来線はないとの発言をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

○井戸広域連合長　　いやいや、今まで並行在来線と言われているもので、同一県内に在来線がないにもかかわらず、並行在来線とされたような例がないということと、それからもう一つは、都市近郊線と言われているような路線についても、並行在来線にされたことがないという事実を上げて申し述べておきました。

それでは、調理師・製菓衛生師試験につきまして、情報提供です。

○事務局　　資料11、調理師・製菓衛生師試験の実施について、御報告いたします。

今年度の調理師・製菓衛生師試験は、7月14日、10会場にて実施し、8月23日に合格発表を行うことといたしております。

現在、願書の受け付けを締め切り、順次受験資格を審査しているところでございますが、5月21日時点におけます出願者数は、調理師が4,473人、製菓衛生師が1,833人、合わせて6,306人となっております。

御説明は以上でございます。

○井戸広域連合長　　しっかり試験運営をしていくように準備を進めておりますので、お知らせをいたしました。

続きまして、関西広域連合の7月臨時会の開催でございますが、7月7日の午後1時に、今回は兵庫県の議会の議場で開催をさせていただくこととなりますので、ちょっと遠路になるかもしれませんが、よろしく御協力をお願いしたいと存じます。

あと、配布資料として、施策運営目標に対する行政評価と関西創生戦略の平成30年度期末評価につきまして、資料を取りまとめておりますので、御参照いただきたいと思います。

以上で、第105回の関西広域連合委員会を終えたいと思いますが、何かございましたらお願いします。

それでは、以上で第105回広域連合委員会を終了とさせていただきます。

御協力ありがとうございました。

閉会　　12時20分